

コミュニティスクールだより

令和7年度 第2号

氷室のかぜ

そお小学校学校運営協議会
(事務局 そお小学校)
電話 85-0207

11/8(土) 三世代ふれあいフェスタ ～三世代それぞれの感想



【地域の大人より】

末北 鎌近 令子

こちよい深秋の候、今年も三世代ふれあいフェスタに参加させていただきました。

1・2年生の音楽発表は、少人数とは思えない大きな声で、とても迫力ある元気な発表会でした。3～6年生は、リズムカルなピアノ演奏に始まり、澄んだ声に抑揚、年齢差のある中、いくつかのパートでよくまとまって盛り上がったと感動しました。素晴らしかったです。

お餅会食では、今年は子供たちの中に大人が交わる席に着き、交流がより深まった感じがしました。大人びた口調に驚いたり、子どもらしい仕草に笑いを誘われたり、帰宅後の様子を聞くと「まず宿題です」の返答に感心したり、楽しい団らんを味わいました。

少人数ならではのイベントは、保護者や学校関係者のご苦勞あつてのことで、子供たちは本当に幸せと思います。今後も明るくのびのびと学校生活を楽しんでほしいと思います。楽しいひとときをありがとうございました。

【1年生保護者より】

別西 篠田 徹

ブラインドの隙間から差し込む朝日で目覚めたいつもより少し遅い朝でした。急いで子どもを送り、それから自分の支度をし、学校へ向かいました。

まずは息子たち1・2年生の歌と演奏からです。保育園の時とは違って少し大人びた内容でびっくり。続いて3～6年生の発表は「なんでそんな曲にしたん？」と言いたくなるような難しい曲で感心しました。その後は全員参加型時間で祖生小唄～色々なゲームはまるで夏フェスに参加している気分でした。(大嘘笑)

最後のお餅は個人的に一番楽しみにしていたもので、餅つきから参加させてもらい、息子たち、近所の大先輩方と一緒にその餅を食べ、バカ話に花を咲かせ大変楽しいひと時でした。

一番印象に残っているのは、息子の友達が餅を8個食べていたことです。また来年も楽しみにしています。

別西 宮本 俊章

11月8日の少し冷える朝、快晴の天気の中、三世代ふれあいフェスタが開催されました。初めての参加でどのような事が起こるのかワクワクしていました。昨年は祖生小学校150周年ということもあり、地域の方も感慨深いものがあつたのではないのでしょうか。

会はとても笑顔の溢れるものになりました。1・2年生の歌では、元気な声とかわいい振り付けに心温まるものがありました。3～6年生の歌と演奏では、練習でがんばったんだなと思わせられる完成度で、みんなの表情もよく、感動しました。また、地域の方と一緒に踊った祖生小唄や、餅つきと、まさに三世代の交流があり、老若男女皆さんの笑顔と活気に溢れていました。個人的にはお餅が大好きで、つきたてのお餅は最高でした。

このような会ができることに、先生方や地域の皆さんのボランティア活動に支えられていることに気づかされました。とても楽しいふれあいフェスタでした。

【6年生より】

祖生小唄を楽しく踊ったり、餅をついたりできてよかったです。お餅を食べるのも楽しかったです。終わりの言葉の係をがんばりました。（竹田 弥央）

音楽発表では全力を出し切れ、ふれあい遊びもみんなで楽しくできました。自分の台詞や祖生小唄も間違えず、お餅つきも上手にできよかったです。（田村 鎧守気）

音楽発表はドキドキしたけど、みんなで楽しく歌えてよかったです。ふれあい遊びのインタビューでは緊張したけど、みんなが助けてくれて楽しくできました。（豊島 明莉）

音楽発表ではミスせず楽しくできました。ふれあい遊びは大きな声で進行し、楽しく交流できてよかったです。お餅は丸くこねたし上手につけてよかったです。（登尾 由梨）

緊張したけどよい音楽発表ができよかったです。ふれあい遊びは保護者や地域の人と一緒にゲームができ楽しかったです。お餅つきは杵が重くてびっくりでした。（松重 姫希）

音楽発表は気持ちに余裕をもって伴奏できてよかったです。ふれあい遊びは事前練習や準備は大変だったけど、本番では皆さんが楽しんでくれて嬉しかったです。（三浦 咲恵）

ようこそ先輩！ in そお

玖珂町 藤重 秀之

皆さん、こんにちは！ 10月31日には、下東出身の、そお小学校の先輩として、皆さんの前でお話できる機会をいただき、本当にありがとうございました。

当日は、小学生から社会人までの私の経験を振り返りながら、後輩の皆さんに伝えたいことをお話しました。サプライズゲストとして小学校時代の同級生に思い出話を読んでもらい、漫才風に楽しく聞いてもらう演出もしました。みんな興味津々で聞いてくれて、協力してくれた河平さんには感謝しかないです！以下、話した内容です。

私は「走る」ことを中心に、自分の半生を振り返りました。小さい頃は人見知りで、保育園に行くのも嫌だったそうです。小学校時代の写真もあまり残っておらず、みんなには思い出をたくさん写真に残してほしいと思います。当時は足も速くなかったけど、小6のマラソン大会で2位になったことが、「走ることは得意かも？」と思う「きっかけ」になりました。

中学生の頃は、勉強はちょっと苦手だったけど、スポーツに一生懸命でした。山口県陸上大会2000mの部で2位になったことが、本格的に陸上を始める「きっかけ」でした。

高校・社会人時代は、マラソン、駅伝、長距離走に夢中でした。たくさんの写真スライドを見てもらいながら、インターハイ出場や昭和63年の防府読売マラソンでの初優勝（2時間16分20秒）など、いろいろなエピソードをお話しました。

私が今回一番伝えたかったのは、「マラソンで優勝できたのは、その時々自分が変わる『きっかけ』があったからこそで、走ることが好きになったから」ということです。

子供たちは、真剣に話を聞いてくれていました。今回の授業が、子供たちの心に何かしら響き、夢を叶えるための「きっかけ」になってくれたら嬉しいです。

最後に、「貴重な時間をくださったそお小学校に、心から感謝します。これからも、故郷であるそお小学校は、私の大切な思い出として生きていくと思います」と締めくくりました。



《編集後記》

「氷室のかぜ」第2号を無事発行できました。今号はそれぞれの世代からの原稿をいただくことができました。世代ごとの表現の違いも見られ、編集する上でもよい刺激をいただきました。

みなさまよいお年をお迎えください。

氷室のかぜ 編集部一同